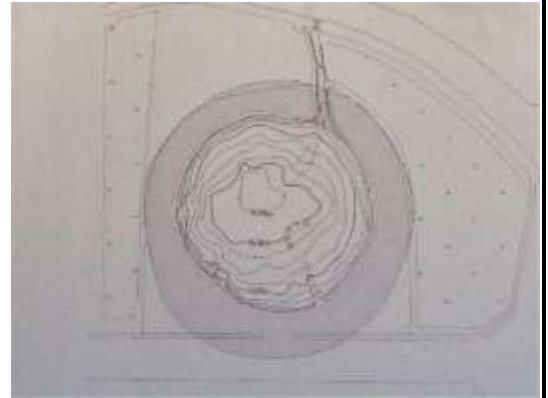


## 播磨町 「愛宕塚（あたごづか）古墳」

5月13日、ユネスコの諮問機関(国際記念物遺跡会議:イコモス)は、日本最大の前方後円墳「仁徳天皇陵古墳」(大山古墳、堺市)を含む大阪府南部の「百舌鳥・古市古墳群」を世界遺産に登録するよう勧告しました。6月30日からの世界遺産委員会で正式に決まれば、自然遺産を含め国内の23件目の世界遺産登録となります。

兵庫県内にも大きな前方後円墳があります。神戸市垂水区の明石海峡を臨む「五色塚古墳」(県下最大 全長194m、後円部の高さ18.8m)や加古川下流域の「行者塚古墳」などがそうです。明石西高校に近い古墳では、前方後円墳ではありませんが、円墳の「愛宕塚古墳」(県指定文化財)があります。



明石西高校から北西、JR土山駅の少し南の住宅地の中にある円墳。古墳時代中期のもので、周濠を備えています。播磨町内に現存する唯一の古墳で、印南野台地の最南端に位置しています。

古墳の直径は約22メートル、高さ約2.2メートル、墳頂部の標高は15.3メートルで、周濠の幅は約4.5メートルあります。現在埴輪は残っていませんが、転落した埴輪が周濠から出土しています。古墳ができた当初は、古墳の周りに埴輪が立て並べられ威容を誇っていたと考えられます。江戸時代になって墳丘上に愛宕権現(あたごこんげん)が祀られたことから愛宕塚と呼ばれるようになりました。

世界遺産になるよう勧告された「百舌鳥・古市古墳群」は住宅地が間近に迫る市街地の密集古墳として評価されましたが、愛宕塚古墳も住宅地の中にあり、地域と共存しながら県指定文化財として守られています。

【参考】 県下最大の前方後円墳 神戸市垂水区 **国史跡 五色塚古墳** 全長194m、後円部の高さ18.8m

### 史跡 五色塚古墳

五色塚古墳と小塚古墳は、古墳が造られた当時の姿が見られる野外博物館として、文化庁が計画を立て、神戸市により1965年から10年の歳月をかけて発掘調査と復元整備工事が行われました。

五色塚古墳は、墳丘の全長194メートル、後円部の高さ18.8メートルの、兵庫県下最大の前方後円墳です。周囲は深い濠と、今は見ることができませんが、浅い濠で二重に囲まれています。墳丘は三段に分かれ、下段の斜面には古墳付近で集めた小さな石を置き、中段と上段の斜面には頂路島から運ばれた大きな石を敷いていました。

墳頂と各段の平坦面には埴付円筒埴輪・埴付朝顔形埴輪をめぐらせていて、およそ2,200本立てられていたと推定されます。濠の中には東西のくびれ部付近に方形マウンド(島状遺構)が造られているほか、円筒箱を埋めたマウンドもありました。

五色塚古墳では、後円部にあると考えられる埋葬施設などの発掘調査は行っていません。古墳が造られた時期を推定する材料は少ないのですが、埴輪の形などからみて、4世紀後半ごろと考えられます。

神戸市教育委員会



(昭和50年代の北から南方面の明石海峡を写した写真:案内施設内展示品 神戸市教育委員会)



(下3枚写真 2013.7 撮影)